

いちめんのなのほな

令和元年11月15日(金)

校長 鈴木 誠

あいさつ運動 - 6年生代表委員と6年生 -

11月13日(水)～19日(火)

6年生の代表委員が呼びかけて、6年生全体で全校に向けてあいさつ運動「あいさつっていいな 中部のあいさつで紅葉を楽しもう」に取り組んでいます。誰に対しても気持ちのよいあいさつをする習慣を身に付けることを目的としたものです。

学級としては、毎朝放送される目標が達成できると昇降口の大きな木が描かれた模造紙に「紅葉」を貼る。一人一人は、あいさつできたら配付されたカードにスタンプをもらうという活動に、多くの子供が積極的に取り組み、休憩時間は昇降口等が大賑わいです。

あいさつをもっと活発にしたいとの思いをもったこと、それを実現するために学年全体で全校の運動にしたことなどが素敵だと思います。さすが中部小のエンジンです。子供たちが、学校の中だけでなく、家でも学区でもより活発にあいさつができるようになることを願っています。



研究発表(臨時朝会) 11月11日(月)



・「なぜ六ツ美中部学区は米作りが盛んなのか」 5年2組 山本鳳介さん

「なぜ六ツ美中部学区は米作りが盛んなのか」について夏休みの自由研究で取り組んだ山本君。悠紀の里で話を聞く、JAで耕地面積や農家の戸数などを調べる、図書館で学区の歴史や開拓者について調べる、学区の農家の方に今後の米作りなどについて伺う、などしたそうです。膨大な資料を基に導き出したまとめ「多くの水害にあってもあきらめずに

農業を受け継いできた人々がこの学区にはたくさんいます。六ツ美中部の大切な歴史が詰まっている水田地帯を大切に、お米の恵みへの感謝を忘れずに暮らしたい」を力強く発信しました。

・「残さず食べよう」2年2組のみなさん

学芸会で「給食番長」を演じた2年2組が、食べ残しについて研究し発表しました。輸入食品を調べたり、栄養教諭への聞き取りや自宅の冷蔵庫を調べたりに加えて、具体的な食べ残しを減らす方策に触れるなど、充実した研究内容でした。クイズ形式などの工夫をしながら、「残さず食べよう」と訴えました。

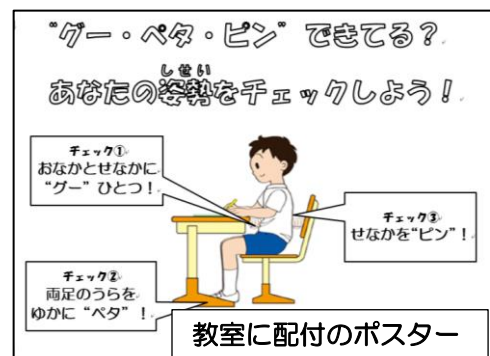


合言葉は「グー・ペタ・ピン」

- 保健集会・よい姿勢 - 11月14日(木)

保健委員の「よい姿勢」を呼びかける集会がありました。練習の成果を発揮して、脳の働き、視力

や意欲への影響などに触れながら、「正しい姿勢」が「楽な姿勢」であることを全校に伝えました。合言葉は「グー(お腹と背にげんこつ一つ)、ペタ(両足の裏を床に)、ピン(背中)」です。





市理科・家庭科作品展入選作品展示会 11月11日(月)～22日(金)

今秋の天候不順によって開催できなかった岡崎市理科作品展ならびに家庭科作品展で展示されるはずだった入選作品の展示会を2階渡り廊下で実施しています。

通りかかる子供たちが足を止めて作品を鑑賞したり読んだりする姿が見られます。学級単位での見学も計画されています。優秀な作品から学んでほしいと思います。

ダイコンの観察-3組- 11月11日(月)

3, 4, 5組が栽培しているダイコンが発芽し、育ってきました。この日は、3組の子供たちが観察を行いました。「新しい葉(本葉)は毛が生えている」など手で触れたりもしながら観察しました。

そして、観察する力もさることながら、3組の子供たちの形や色をとらえて対象を的確にスケッチする力に、いつも感心させられます。



タブレットPCの利用

-2年生 算数科- 11月11日(月)

「最高記録だあ」「先生より早くできた」などの歓声が2年生の教室から聞こえました。見ると、タブレットPCのアプリケーションを用いて、学習中の「九九」を練習している子供たちの姿がありました。便利な道具の一つとしてタブレットPCを扱い、次々に出題される「九九」に集中する姿に、子供たちの順応力の高さと、これからの時代を生き抜く子供たちの力を育む

ための機会を提供するという使命の重さを再認識しました。

「サツマイモパーティー」

-1年生・六ツ美中保育園との交流- 11月13日(水)

1年生が六ツ美中保育園の年長さんを招いて交流会「サツマイモパーティー」を行いました。

自分たちで進行させながら、「はないちもんめ」「田の字鬼」をした後、せっせと水遣りなどの世話をして育ててきたサツマイモと一緒に食べました。運動場に「笑顔」と「おいしい」があふれました。



これまでも何度か交流してきているからでしょうか、仲良しのペアさんを見つけたり、自然と手をつないでリードしたりする姿が見られました。1年生の子供たちが、「お兄さん・お姉さん」であることを意識する機会は、本当に大切なことです。こうした経験の積み重ねが、いずれは社会の担い手へと子供たちを育てるのだと思います。

そうした育ちが、事前にサツマイモを切ってあく抜きしたり、蒸し器で試作し当日の朝から調理したりするなどの、自分たちを支える誰かに気付くことにつながるのだと思います。「おいしい」や「笑顔」が、感謝につながっていくことを願っています。実りの秋です。